

# Iがっのくもの子の会だよ

## 新年あけましておめでとうございます

新しい一年がスタートしました。

くもの子は、24年目にはいります。

今までにこんな出会いと別れと、奇みありでしたか。

今年もどんなかんじで、出会いがめ子か、楽しみにしながら、つぎつぎとついでと鬼います。

こじんまりにやっている会ではあります。大きい鬼いをおねに子育て応援ができればと鬼っています。

今年もよろしくお願ひします。



〈H.26.1.10〉

次へとつぎつぎとくもの子(おね)になります。  
ところが、子どもの取り組んで「過程」や「努力」ではなく、結果ばかりに目を向けてしまうと、子どもも「できた」「できない」という結果ばかりに目がいっていきがちになり、できぬにないものは最初から避けて、親からの言平西を気にして結果をごまかすようになる子もいます。

～共感する言葉「つらかったね」「楽しかったね」「うれしいね」～

失敗にできなかった時、「また失敗したの」「だから、どうせできない、言ったしやない、なにで何気なく言ってしまう」これがありませんか。子どもの心は平ズつきやすいものです。むしろ、その時、「(失敗に)つらかったね」「悲しかったね」と子どもの気持ちに寄り添い、共感すると子どもは自分の気持ちを受容されて心を確信し、安心するようになります。

また、楽しかった時には、「楽しいね」、うれしかった時には、「うれしいね」と共感する言葉かけをしましょう。子どもは、親と気持ちを共有できている安心感から自己肯定感をもつことができます。そして子どもは自分を受容し見守る、これこそ親の存在を安全基地として、そこから勇気や安心感を得て、さまざまなことに挑戦してみようというたこまじも生まれます。そして、「お母さんに相談すれば大丈夫」と考え、困った時には、「お母さん、あね...」と相談するようになります。一確に問題を乗り越えることができます。

〈「甘え地上予お母さんがやっていますよ」〉

### ～認める言葉

「～をよくがんばったね」「～ができたね」

「よく最後までがんばったね」「赤ちゃんにやさしくできたね」と、子どもの行動や努力を認める言葉かけをしましょう。

もし、結果が予想外悪かったとしても、結果よりも、一生懸命に取り組んだ、あるいは、最後までやり切ったという子どもの行動の過程や努力を大切に、そのよさを認めるようにしたいものです。それにより、子どもは、親が自分の取り組んでいる姿を見守り、認めてくれていることを知り、自己肯定感をもて、「よし、やろ」という意欲がわいてきます。仮に、結果が失敗に終わっても、これをバネにして、